

花一会図書館便り

4・5月号（令和4年4月28日発行）

【TEL&FAX】

0136-57-6085

【MAIL】

hanaichie@voice.ocn.ne.jp

花一会ホームページ



Facebook



Instagram



Twitter

第5回

「郷土探索への道 黒沢温泉編⑤」

ついに現地へ！黒沢温泉の現在は。②

「郷土探索への道 黒沢温泉編」第5回は、いよいよ黒沢温泉の跡地がどのようになっているのかをお伝えします。

薬師神社本殿の社がある丘の手前から右奥の方へやや下りながら続く道を50mほど進んだ先に目的の黒沢温泉跡地がありました。

鬱蒼とした森の中でそこだけ開けた場所になっていて、広さは約100坪（330平米）位でしょうか。土地の奥に小さな2階建ての民家が立っていて、薬師神社から続いた道の行き止まりのこの場所はまさに民放テレビ「ボツンと一軒家」のような雰囲気でした。その開けた土地を挟むように両側を小川が流れ、その奥側の小川の淵に石垣で護岸された場所があって、その辺りに黒沢温泉があったそうです。黒沢温泉の建物跡などは残っていませんでしたが、雑草が刈り取られ、周辺の土地が均されていたりと薬師神社の氏子や関係者によって大事に管理されている様子が伺えました。

黒沢温泉跡地周辺



民家



温泉湧出場所



土地の奥に建っている民家は、黒沢温泉に由来するものではなく、嘗ては神社に関係する人が住んでいたが、現在は住む人もなく神職が礼拝に来た時に使用しているとのことでした。民家の奥には深さ1m、広さ10畳ほどに掘り下げられた箇所があり、水が湧き出ていました。冬期間周囲に降り積もった雪を解かすための融雪槽として作られたそうです。湧き出ている水に触れてみると、薬師温泉跡地に湧出していた水と同様にほんのり暖かく、硫黄臭がしました。黒沢温泉も同じ匂いがしていたのでしょうか。

次回、郷土探索への道 黒沢温泉編 最終回
「当時を知る町民が語る黒沢温泉」乞うご期待！！

今月のおすすめ本 コーナー



『女のいない男たち』
村上春樹 著 (文藝春秋)
英語で伴侶のことをベター・ハーフ・より良き半身と言うそうだ。文字通り自分の半身だった“女”に去られた“男”たちの深い喪失の物語集。他人という光によって己の存在が明らかにされる時、女と男の間ではより鮮明なものとなるらしい。
(蘭越町 笠井三葉留)



『物語 ウクライナの歴史』
黒川祐次 著 (中央公論新社)
2002年発行の本書は、いま最も売れている本の一つではないだろうか。なぜ今、ロシアはこの国を影響下に置こうとしているのか。その歴史的背景には一体何があるのか。元駐ウクライナ大使の著者が、紀元前から20世紀までの歴史を多数の参考文献をもとに紹介する。



『はじめての』
島本理生ほか 著 (水鈴社)
島本理生・辻村深月・宮部みゆき・森絵都・人気アーティストYOASOBIが仕掛ける小説と楽曲の融合企画から生まれた短編集。今回は直木賞受賞の女性作家4人を揃えた。ファンタジーという枠の中で作風の違う四編の見事な化学反応。聴いてから読んでも、読んでから聴いても楽しめる。
(蘭越町 笠井三葉留)



『皮膚科医デルぽんのデルマな日常』
デルぽん 著 (いそっぷ社)
皮膚科医と患者のコントのようなやり取りが笑えるコミックエッセイ。タイトルの「デルマ」は「皮膚科」を意味するドイツ語の略だそう。皮膚科に通う人は「あるある」と頷いてしまう場面や、タメになる知識も。あまり世間では知られていない皮膚科の世界をお楽しみください。

野菜づくりの季節です



『「エエ趣味の園芸 やさいの時間」藤田智の野菜づくり大全』
藤田智 監修 (エエ出版)



『はじめてのコンテナ菜園』
木村正典 監修 (ラティック社)



『決定版コンパニオンプランツの野菜づくり』
木嶋利夫 (家の光協会)



『超図解野菜の仕立て方の裏ワザ』
「やさしい畑」菜園クラブ 編 (家の光協会)



『OX写真でわかるおいしい野菜の生育と診断』
高橋広樹 (農山漁村文化協会)

「こんな写真集初めて! ぜんぶ野菜の花です。」



『野菜の花写真館』
植松國雄 (敬文社)